

令和2年度 免許状更新講習一覧

期	講習番号	講習の期間	区分	講習の名称	講習の概要	担当講師	受講人数
1	1	令和2年8月17日 (月)	【必修】	教育の最新事情	幼児期の教育を主たる対象として、①教育専門職に求められる課題、②教育政策の動向と課題、③子どもの変化をふまえた発達や支援の課題、④子どもの生活の変化をふまえた課題の4項目を主に検討し、教育の最新事情と今日的な課題についての理解を深めることを目指す。	金子 晃之 (桜花学園大学保育学部教授) 勝浦 眞仁 (桜花学園大学保育学部准教授)	80人
	11	令和2年8月18日 (火)	【選択必修】	保護者支援—保護者との協力関係をめざして—	急速に時代が変化していくなかで、子どもの健全育成に対して、保護者と教員との間に構築されるべき協力関係が築きにくい時代になっている。本講習では、教員自身の努力や工夫をふりかえりながら、保護者と協力関係を結ぶための保護者支援について考えていく。	小嶋 玲子 (桜花学園大学保育学部教授)	40人
	12	令和2年8月18日 (火)	【選択必修】	幼小接続を見据えた幼稚園・小学校教諭のあり方	幼児期の教育を主に、幼稚園から小学校教育へのスムーズな接続の取り組みを幼児期から児童期にかけての教育のつながりを考えながら理解する。 幼小接続の連続性を踏まえたつながりを正しく理解可能な幼稚園教諭・小学校教諭のあるべき姿について解説する。 また幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の関係についても言及する。	松永 康史 (桜花学園大学保育学部助教)	40人
	21	令和2年8月19日 (水)	【選択】	子どもの造形と表現	子どもたちは、日々の生活の中で色々なモノに出会い、それらの興味や関心をきっかけとして造形的な表現が生まれる。造形的な表現は感覚や思考を豊かにするものだが、現代ほど創造性が求められている時代はない。身近な素材や画材を使って、楽しい造形演習を通じ、先ず子どもの造形素材についての理解や正しい道具の扱い方を学ぶ。子どもとともに豊かな造形的な表現を存分に楽しむためには、どのような援助をしたらよいのか、どのような活動ができるのかを考え、実践を通してその手掛かりを見つけ出す。	高田 吉朗 (名古屋短期大学保育科教授)	20人
	22	令和2年8月20日 (木)	【選択】	子どもの発達障がいの理解と支援	保育現場では、発達に障がいを持つ子どもやその周辺の子どもの関わりに困ることが多いと思います。入園直後や行事の時、就学前などさらに不安定な行動が見られるのではないのでしょうか。ここではまず発達障がいを持つ子どもへの関わりをどうすればいいのか、さらに保護者をどのように理解し、支援していくことができるのかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。	山下 直樹 (名古屋短期大学保育科教授)	40人
	23	令和2年8月20日 (木)	【選択】	子どもの健康と運動、感染症予防	現代では子どもの体力や運動能力の低下について危惧されており、運動する子どもとしない子どもの二極化傾向が指摘されています。さらに、肥満ややせの割合も増加してきており、食事と運動のバランスを保っていくことは、過去の時代より難しくなっていると思われます。また、非常に衛生的になった現代においても感染症の発生は続いており、その予防や免疫力を高めるための食事と運動についても改めて学びたいと思います。	木村 達志 (桜花学園大学保育学部教授)	40人
	24	令和2年8月21日 (金)	【選択】	多様性社会における保育	様々な多様化が進む日本社会の実態、および多様化が保育現場へもたらす影響の学習を講義の主内容とする。また、多様化社会において生まれてくる保育の新たな現代的課題とそれへの対応について、諸外国の事例も参照しながら理解を深めることも目的とする。	小柳 雅子 (名古屋短期大学保育科助教)	40人
	25	令和2年8月30日 (日)	【選択】	子どもの造形と表現	造形表現は感覚や思考を豊かにするものだが、現代ほど創造性が求められている時代はない。身近な素材による楽しい工作演習を通じ、子どもの造形素材についての研究や正しい道具の扱い方を学ぶ。	田端 智美 (桜花学園大学保育学部准教授)	20人
2	2	令和2年9月20日 (日)	【必修】	教育の最新事情	幼児期の教育を主たる対象として、①教育専門職に求められる課題、②教育政策の動向と課題、③子どもの変化をふまえた発達や支援の課題、④子どもの生活の変化をふまえた課題の4項目を主に検討し、教育の最新事情と今日的な課題についての理解を深めることを目指す。	小島 千恵子 (名古屋短期大学保育科教授) 堀 由里 (桜花学園大学保育学部准教授)	80人
	13	令和2年9月21日 (月・祝)	【選択必修】	幼児教育・保育における指導計画作成の意義と方法	本講座では、平成29年改訂の幼稚園教育要領、及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領において新たに設けられた「カリキュラム・マネジメント」の必要性や、全体的な計画に基づく指導計画の作成の在り方について解説する。 具体的には、①教育課程や全体的な計画などの意義及び編成の方法、②園や地域の実態に即した実施・評価・改善の仕組み、③活動の充実や質の向上を目指して人的・物的資源を効果的に組み合わせる意味、④長期指導計画・短期指導計画等の具体的な作成方法と評価・改善の方向性、などについて理解を深める。	上村 晶 (桜花学園大学保育学部教授)	40人
	14	令和2年9月21日 (月・祝)	【選択必修】	幼児教育・小学校教育の接続の観点から「主体的・対話的で深い学び」を具現化する	主体的・対話的で深い学びの実現は幼児教育・小学校教育ともに重要事項であり、その具現化が現場に期待されています。幼児教育と小学校教育の接続の観点から、これまでの保育・教育をどのように改善し、子どもの学びをどのように構築していけばよいのかを具体的な実践事例や講習の中での演習を通して考えます。そして明日からの実践力の向上をめざします。	森川 拓也 (桜花学園大学保育学部准教授)	40人
	26	令和2年9月22日 (火・祝)	【選択】	教育者・保育者の言葉—昔話・伝説・童話をういた指導—	本講座では教育現場・保育現場での活用が期待される【昔話、伝説、童話】等を教材にして、その成立背景や幼児・児童の文化財としての意義等について分かりやすく講義します。また【現職教育】の場でも活用できる【昔話、伝説、童話】等の提示及び解説も行います。	太田 昌孝 (名古屋短期大学保育科教授)	40人
	27	令和2年10月4日 (日)	【選択】	幼児期の食育とアレルギー	園における食育とアレルギー対応について学ぶことを目的とする。子どもと家庭の食の現状をふまえ、楽しく食べる子どもにつながる食育の基礎知識と園での食育の進め方、食育を通じた家庭との連携について学ぶ。また、アレルギーの最新基礎知識と園での対応についても学んだ上で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」につながる食育の取り組みをどのように実践していくのかについてグループワークを通して深める。	小川 雄二 (名古屋短期大学保育科教授)	70人
	28	令和2年10月4日 (日)	【選択】	子どもの造形と表現	造形表現は感覚や思考を豊かにするものだが、現代ほど創造性が求められている時代はない。身近な素材による楽しい工作演習を通じ、子どもの造形素材についての研究や正しい道具の扱い方を学ぶ。	浅野 卓司 (桜花学園大学保育学部教授)	20人
	29	令和2年10月11日 (日)	【選択】	異文化への気づきを目的とした小学校英語	本講習では、小学校における英語教育について理論と実践の両面に焦点を当てながら、児童の認知レベルにあった具体的な指導法について検討していきます。異文化への気づきをキーワードとし、教材や活動について実践的な側面からの講義とワークショップを行います。	加藤 あや美 (桜花学園大学保育学部准教授)	40人
	30	令和2年10月11日 (日)	【選択】	発達障害がある幼児・児童・生徒の理解と支援	保育現場では、発達に障がいを持つ子どもやその周辺の子どもの関わりに困ることが多いと思います。入園直後や行事の時、就学前などさらに不安定な行動が見られるのではないのでしょうか。ここではまず発達障がいを持つ子どもへの関わりをどうすればいいのか、さらに保護者をどのように理解し、支援していくことができるのかについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。	柏倉 秀克 (桜花学園大学保育学部教授)	40人